

第59回 益城町消防団出初め式

みんなの
ために、
町のために、

新春恒例行事の益城町消防団出初め式が1月20日、町民グラウンドで盛大に開催され、幸隆一団長以下533人の消防団員が集結し、地域防災の決意も新たに、訓練演習を行いました。

町消防音楽隊の式典音楽の演奏とともに、幸隆一団長を先頭に総員533人の団員が一斉に分列行進を行い、会場である町民グラウンドに入場しました。

4つのパートに分かれて行われた「通常点検」では、団員相互が息を合わせ、正確な規律や機敏な動作を競い、訓練の成果を存分に発揮しました。続いて行われた「標的倒し競技」は、28m離れた3つの標的を4本のホースを連結し、放水して倒すまでの時間を競う競技。各団員が自分の役割を担い、団員相互が連携し全力疾走する姿に、訪れた観客からは、大きな声援と拍手が送られていました。

アトラクションとして、今回は第2保育所、第3保育所、第二幼稚園の園児たちが、これまで練習してきた「防火の誓い」や太鼓の演奏、遊戯などをそれぞれ披露。

また、県防災消防航空隊・高遊原南消防署の協力で、「土砂災害により孤立した住民を救助する」という想定のもと、今回初の試みとなる防災ヘリコプターによる救助訓練が行われ、緊迫感のある救助活動を披露しました。

会場内では、町婦人防火クラブ（富田セツコ会長）による炊き出し訓練が行われ、豚汁1,200食が団員や関係者、観客などに振る舞われました。



- 1 昼食時には団員や観客らで行列ができた町婦人防火クラブの炊き出し訓練
- 2 ホースや筒先を手に持って、全速力で標的に向かって走る団員たち
- 3 通常点検の部で2列に整列し、点検を受ける団員たち